

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670101161		
法人名	医療法人 東北医療福祉会		
事業所名	フラワー小姓町		
所在地	山形県山形市小姓町7番15号		
自己評価作成日	平成24年10月17日	開設年月日	平成14年 7月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合 オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桧町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 24年 11月 19日	評価結果決定日	平成 24年 12月 11日

(ユニット名:たんぽぽ)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニットで生活されている入居者様の中、車椅子が必要な方が2～3名いるが、出来る限り入居者様一人ひとりの個性や能力を尊重し、お互いに楽しく穏やかに過ごして頂ける様に支援していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳や権利・個性を尊重し、地域の中で安心安全な生活が継続できるようにホーム独自の理念を事務所入り口に掲示している。ユニットでも常に確認出来るよう掲示し、取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣へ利用者と一緒に散歩したり、買い物等へ行った際には、近所の方々と挨拶を交わしたり立ち話等で交流を図っている。また事業所の食材も近所のお店より調達して、取りに行ったり配達して頂く中でも利用者様自身からの挨拶し交流されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣にある学校(小学～大学)の学生・近隣の方々のボランティアを受け入れ、利用者様と共に楽しむ中で認知症の方と触れ合い理解して頂く様支援している。また、介護実習生の受け入れ等、自治体への協力にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。その場には利用者様とスタッフも同席し、活動状況等を報告している。地域の方のご意見を取り入れ、今後のケアサービスに活かせるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、事業所に介護相談員が来訪される。訪問時には利用者様・スタッフと会話され日常生活の様子を把握し、評価して頂いている。ケアサービスの改善につながる助言を頂き実践している。今後も協力関係を築けるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は中央玄関・各ユニットの玄関を解放し、見守りまたは声がけを重視し、利用者様が自由に出入り出来るようにしている。スタッフも「拘束のないケア」等への研修に参加し、学んだ事を共有し、日々の利用者様の生活に活かせるよう工夫し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入職時研修にて虐待について説明を行い、虐待防止・発生防止に努めている。また随時、虐待等の研修へ参加し、他スタッフと情報交換し未然に防げるよう努めている。常に、どのような事が虐待になるのかを、スタッフ間で再確認するなど徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等の資料等配布しているが、理解不足な所がある為、研修会や勉強会を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間をとり説明を行うようにしている。利用料金についてや緊急時の協力要請・契約解除等についてご家族様へ詳しく説明した上で同意を頂いている。また、面会された時や家族総会の中でも、不明な事があれば、その都度、説明し十分にご理解し納得して頂けるよう機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、利用者様の生活を支援する中で、さまざまな場面から利用者様の希望・意見等を傾聴し、また面会に来られたご家族様・介護相談員からの要望・意見も同様にケアサービスの中に組み入れ実行出来るよう努めている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催しているスタッフ会議に出席し、スタッフの意見・提案等を聞き機会を設けている。また、各委員会やリーダー会議といった会議へも出席し、これらの会議からでた意見・提案を運営推進委員会へ提案し反映するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々、管理者やスタッフと関わり合う中で、管理者・スタッフからの意見・希望を聞き現場に活かせるよう努めている。必要資格(介護福祉士・ケアマネージャー等)の取得を推奨し、各スタッフがやりがいをもち、向上心を維持できるよう環境整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や県で開催されている研修や交換研修等へ参加し、他事業所のスタッフ等との意見交換・学習する機会を設けている。また、学んだ事・情報等を事業所内で報告し共有している。各スタッフの力量・要望を把握し、個別に指導したり研修等への参加を促しレベルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に近隣事業所との交流を図っている。また市や県のグループホーム連絡会主催の研修会や、交換研修等で、他事業所との交流を設け意見交換を行いサービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の個人情報や要望等を参考にして、サービス計画書へ活かし、利用者様の希望されている事等が実行出来るようスタッフ同士協力し合い対応している。また、日々のケアサービスでも利用者様の声を聴き、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用開始までの間は、ご家族様や利用者様からの不安や要望等を傾聴し細目に対応している。利用開始後も新たな生活空間で、利用者様が不安とならぬよう声掛けや傾聴等の対応に努めている。来所されるご家族様へも同様である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族様との話し合いの中で、何を希望され必要としている事(伝えたい事)は何か等を傾聴し、常に相手の立場に立ち対応する事に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事を把握し、日々の生活の中で活かせるよう支援している。また、他利用者様と共に支え合い楽しんで頂けるような関係が築ける様に配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様は、利用者様を支えていく上で大切な方だと考えている。月一回の定期的なお便りや、電話連絡の折には、利用者様の様子を報告し、常にスタッフはご家族様への感謝の気持ちを忘れず、共に利用者様を支えるという心構えで対応している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様からの要望にて、外食・買い物や馴染みの理容室、墓参り等々と可能な限り対応している。家族・友人等との外出・面会も可能な限り支援し馴染みの関係を継続出来るよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一緒に楽しめるゲームなど提案して行い、孤立しないように対応している。また利用者の性格や得意分野など考慮しながらスタッフ声を掛け、利用者様同士で協力して作業を行って頂くといった支援もおこなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や特老へ移られた方々へは、共にユニットで過ごされてきた利用者様と共に面会へ行くといった支援を行っている。ご家族様からの相談等にも出来るだけ対応し、関係を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームへの入居時に、ご本人様・ご家族様からの希望・要望を十分に聴き、入居後に活かせるよう対応している。入居されてからも、ご本人様・ご家族様からの意向を把握し、適宜、希望に沿う対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接時に、ご本人様・ご家族様から、ご本人様の趣味・生活歴・周囲の環境・サービス利用の経緯といった情報を収集し、入居後のユニットでの生活に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常生活の特徴や個人の身体的能力や認知機能レベル等を定期的に評価している。また、日々の言動・表情の変化に注意し観察・情報収集に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で感じた事・気づいた事・ケアに対するアイデア等を、常に話し合い実行している。ご本人様やご家族様との交流の中から聞かれる意見・要望を含め月一回のユニット会議で意見交換を行っている。それらを基に介護計画を作成し、常に統一したケアが出来るよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録には、ケアプランの項目に沿って記入し、日々のケアの中で変更等があれば、記録を基に評価し見直しをしている。連絡ノートも活用し、利用者一人ひとりの情報をスタッフ全員が共有出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域商店のご協力・ご理解を頂き食品・日用品の配達をして頂いたり、声を掛けて下さっている。近所の小学校の運動会や、地域の神輿行列等へ見物し、そこで触れ合える地域の方々との交流を大事にしていける事を、これからもさらに活かしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力も得ながら、入居前のかかりつけ医院や、近隣の医療機関へ受診したりしている。出来るだけ慣れ親しんだ医院の受診を支援し、緊急時は受診されている医療機関と相談し健康で過ごせる様に支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、看護職員を配置し、介護職員と情報交換し随時、利用者様の体調管理を行っている。体調変化・急変があつた時には、常に相談・指示を仰ぎ、早急に対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、定期的な面会やご家族様との連絡等を行い経過観察している。面会や連絡等で、利用者様・ご家族様の不安な事等を傾聴し、早期に退院出来るよう相談対応等を行っている。一か月以上の入院治療が必要な際にも、医療関係とご家族様と密に連携をとり支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前には、重度化した場合や看取りに関しての説明を行い、ご家族の同意をもらっている。状態の変化がある場合は、その都度、ご家族様・医療関係者との相談・連携等を図り、ご本人様やご家族様の意向を尊重し、スタッフも共に支援するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは常備しており緊急対応の講習は毎年定期的に行い、スタッフ一人ひとりが知識や技術・対応の心得など実践する機会を設けている。また、急変の可能性の高い方に関してはケアプランへ組み入れ、スタッフが即実践・対応出来るよう体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に年2回避難訓練を行い、避難経路・誘導の仕方・消火器の使用法などの確認を行っている。また地震対策マニュアルも準備されており震度数の高さにより、対策にも差を加えスタッフ全員周知している。地域の方々の参加・見学の協力を頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様ひとり一人の個性を尊重し、日々、集団生活の中での言葉かけや対応に十分注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくご本人様自身で、自分の意思を決定できるようにじっくり・ゆっくりと話し傾聴している。また、希望・要望には出来るかぎり支援できるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の現状や個性を大切に、一人ひとりの時間を大切に支援して。各々の生活習慣や一日の過ごし方、時間配分を尊重し、その方なりのゆっくりした生活をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様一人ひとりの意思を尊重し、衛生面に注意しながら季節に合わせた衣服を着て頂けるよう支援している。男性は髭ぞり・女性はおげ毛そり、また、手足の爪切りや整髪と、いつも心地よく過ごせる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人ひとりのADL等を把握し、スタッフと共におしぼり畳みや食事の盛りつけ・食器拭き等の活動に参加して頂ける様、支援している。食事形態も、一人ひとり食べやすいようお粥や刻み等で提供し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1～2回と体重測定を行い、一人ひとりの体重の増減に気を付けている。また、体調や体重等の状況を把握し、各個人がしっかりと食事や水分が摂れるよう、主食をお粥にしたり副菜を刻み・汁物等にトロミを付ける等工夫して提供している。また日々の献立は、管理栄養士にチェックして頂きバランスの良い食事提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、利用者様一人ひとりの能力に合わせて支援している。義歯使用の利用者様へは、定期的に義歯洗浄剤を用い、常に口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンを見極め、定期的にトイレへの誘導・介助を行い、常に清潔で過ごせる様に支援している。失禁があった際には、利用者様の気持ちに配慮しながら交換するよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中で、十分な水分補給やバランスの良い食事を提供する事に努めている。天気の良い日には、数人で散歩へ出かけたり、ユニット内ではTV体操を行う等、体を動かす機会を利用者様へ支援している。また、医療関係とも連携をはかり、便秘予防への協力を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様一人ひとりの体調や気持ちを考慮し、ご希望に合わせた入浴が出来るよう支援している。施設の設備やスタッフの勤務体制等の関係上、日中に入浴介助を行っている為、検討が必要である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活の中で、一人ひとりの生活パターンに合わせて、いつでも休む事が出来るようになっている。各居室で、ゆったり過ごせる様、入居時に馴染みの物(タンスや本、布団等)を持ってきて寛げる環境で、安眠・休息出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様が確実に服薬出来るよう、服薬チェック表を作成し活用している。また、服薬時には、名前・日付等の声だし確認と服用後の口腔内確認を徹底している。また、看護師と連携し各利用者様の薬に関する目的や副作用・用量等について常に把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの生活歴や能力を活かし、食事の準備や掃除等をスタッフと共に参加できるよう支援している。参加された時には、感謝の言葉を忘れず、日々の生活に張り合い・喜びが見いだせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化を利用し、暖かい時には散歩や買物同行等で、利用者様が肌で季節を実感出来るように支援している。また、ご家族様や地域の方の協力を頂き外食や、行事等へ参加できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご本人様自身でお金を所有している方はいないが、ご希望に応じ、事務所で管理されているご本人様自身のお金は使用可能であることを、説明し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望より、いつでもご家族様との電話をしたり手紙のやり取りが出来るよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現在、収集癖の強い利用者様が利用され、共用の空間の物を剥がしたり、外すといった事が多く、外した際ケガする事の無いように危険な物は全て外している状況である。しかし、個人の居室内は居心地良く過ごせる様に工夫している。また季節の行事等では音楽やDVDを見て、共に楽しく過ごせる時間を提供する等に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、気心の知れた利用者様同士が並んで座って談笑できるよう工夫している。また、他ユニットの利用者様に会い座って会話が出来る空間づくりにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご家族様の協力を頂き、使い慣れたもの・好みの物を居室へ置き居心地よく安心して過ごせる様に工夫している。入居後も、利用者様の身体・精神状態の変化に合わせて、居室で安全で落ち着いて過ごして頂けるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室内の大きな段差には、スロープを設置している。他の小さな段差も安全に移動できるように電気をつけたり、赤や黄色のテープを貼る等の工夫をしている。		